

科目名	日本経済論Ⅰ	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学部	□必修	■選択
			学部	□必修	□選択
英文表記	The Japanese Economy	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年		
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	たにがわ このの	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	谷川 琴乃	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	日本経済の歴史的変遷と現在の課題を体系的に学び、今後の展望について考察する。				
到達目標	1. 日本経済の発展と停滞の要因を理解する。 2. 現在の日本経済の課題を把握し、それに対する政策の意義を考える。				
授業概要	本授業では、日本経済の戦後の発展から現在に至るまでの流れを大まかに把握し、経済成長、バブル崩壊、長期停滞、労働市場の変化、財政・金融政策、国際経済との関係といったテーマを扱います。経済学の基礎知識をもとに、日本経済の現状をデータや理論を用いて分析し、将来の展望について考察します。				
授業計画					
第1回	日本経済論への招待				
第2回	高度成長はなぜ実現できたのか				
第3回	バブルとその後の長期停滞				
第4回	労働市場の構造変化と所得格差				
第5回	中小企業・ベンチャー企業の役割				
第6回	産業構造の変化と日本経済の盛衰				
第7回	環境・エネルギー問題の克服				
第8回	日本の金融システム				
第9回	デフレと非伝統的金融政策				
第10回	財政の維持可能性				
第11回	地域経済と政府の役割				
第12回	人口減少と社会保障				
第13回	国際経済の中の日本経済				
第14回	平成経済から令和経済へ ― 先衰国日本の行方				
第15回	総括				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	事前学習：各回の授業前に指定されたテキストの該当部分を読んでおく。(1.5時間程度) 事後学習：提出された演習問題に取り組み、理解を深める。(1.5時間程度)				
履修条件 受講のルール	特に前提条件は設けないが、ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎を理解していることが望ましい。				
テキスト	宮川努，細野薫，細谷圭，川上淳之，『日本経済論〈第2版〉』（ベーシック+），中央経済社，2021年。 ※別に資料を配布する場合は、授業日までにポータルサイト上へ資料を掲載します。各自パソコン等にダウンロードするか印刷するなどして予習し、授業に持参してください。				
参考文献・資料	授業内で適宜紹介します。				
成績評価の方法	授業態度(10%)、課題(30%)、定期試験(60%) 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。				

オフィスアワー	水曜日（10：40～12：10） 木曜日（10：40～12：10、13：00～14：30）
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	日本経済を理解することは、政策を考える上でも、日々のニュースを読み解く上でもとても大切です。本授業では、理論と実証を組み合わせながら、現実の経済問題について一緒に考えていきます。積極的に授業に参加し、自分自身の視点を大切にしながら、議論を楽しんでいきましょう。